

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。
お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現を
めざしましょう。

Passport

佐賀市男女共同参画情報誌
ぱすぽーと



特集

輝いている男性にインタビュー

今回は、女性が多く活躍されている分野で、輝いている
5人の男性にインタビューしました。



C·O·N·T·E·N·T·S

特集 輝いている男性にインタビュー

p1~4

佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介

p5~6

女性人材リスト登録者向け研修会

p7

特集 輝いている男性にインタビュー



大石裕史さん

増田秀幸さん

患者さんと医師をつなぐ大切な仕事

おお いし ひろ ふみ ます だ ひで ゆき
大石裕史さん 増田秀幸さん

佐賀市立富士大和温泉病院 看護師

Q. 看護の仕事に就いてどれくらいになりますか

大石: この病院に勤務して13年。今は病棟担当です。以前は透析室担当でした。准看護師から数えて16年になります。

増田: この病院に勤務して3年。今は透析室担当です。看護師になって16年になります。

Q. この職業を選んだきっかけを教えてください

大石: 最初は介護士になろうと思っていました。病院で助手として働いていた時に看護師を勧められたのがきっかけです。

増田: 最初は違う仕事をしていました。知人から男性も看護師になれると聞いて、自分は人の世話をするのが好きなので、やってみようと思いました。

Q. 「男性だから困った」ということはありますか

大石・増田: 就業した当時は、男性看護師に対する社会の認識が低かったこともあり、患者さんに医師と間違われて治療方針を聞かれたりして困りました。

でも、男性だから良かったこともあります。例えば、男性患者さんとはスポーツや趣味の話などがしやすいですね。「男性看護師だから相談することができた」と患者さんから言われることもあります。

Q. 仕事をするうえで気をつけていることはありますか

大石・増田: 医師に病状や看護経過を説明したりしますので、患者さんの表情やしぐさなど、ちょっとした変化を見落とさないように気をつけています。

Q. どんな時に充実感を感じますか

大石: 透析の針が大きく、刺して血管に入れるのが難しいのですが、それが上手くいったときなど、技術的なものを克服したときは嬉しいです。透析や点滴の時に指名される事もあります。

増田: 患者さんから「あなたが担当で良かった」など、声をかけていただいた時は嬉しいです。

Q. ご家庭での役割分担はどうなっていますか

大石: 妻が専業主婦なので家事はほぼ任せています。子どもが産まれたので、これをきっかけとして、家事や育児に取り組んでいきたいと思っています。

増田: 家事は主に妻ですが、共働きなので忙しい時は私がやりますし、ゴミ出しや子どもの送り迎えもします。子どもの学校のPTA役員もしています。

Q. 看護師をめざす方へメッセージをお願いします

大石・増田: 看護師は大変な仕事ですが、自分達が就業し始めた頃より男性看護師は増えてきたと思います。どんな職業でも同じですが、イメージで選ばず、自分がやりたい仕事、将来の明確なビジョンをもって、それに向けて進んでほしいと思います。



お仕事の合間にインタビュー。いろいろな仕事道具を身につけられていました。

インタビューを終えて

お二人が看護師という職業を選ばれた頃は、まだ女性の職業だという意識が世間には多くあったのではないかと思います。お二人のように頑張ってお道を開いてくれた方々がいられたからこそ、看護や介護の現場などで働く男性も増えて、私たちも違和感なく接することができるようになったのではないのでしょうか。

(大江登美子、岡本ゆかり、草場栄美)



「家庭科」で開こう自分の可能性

なか にし ゆき お
中西雪夫さん

佐賀大学 文化教育学部
学校教育課程 教科教育選修 家政教育分野 教授

Q. 今後の抱負を教えてください

A. 家庭科の男女共修が実現してからその効果を見てきましたが、意識の変化はあると思います。しかし、家庭科の授業時間数は年々減らされています。(1947年の3分の1まで減少。)そこで全国でネットワークを作り、授業時間を増やすための活動をしています。授業が増えれば職員の採用も増えるのですが、なかなか厳しく、逆に将来家庭科が残るのだろうかという危惧さえあります。家庭科を学ぶ意義、そして成果を具体的にわかりやすく示していきたいと思っています。

Q. この職業を選んだきっかけを教えてください

A. 大学で教育学部の家庭科を専攻しました。そこで学んだことは、生活設計や親子のことなど、生きていくことそのものでした。男性も学ぶべきことなのに、高校までは男性というだけで学ぶ機会を奪われていたことに気づき、とても残念に思いました。

大学に入るまで特に家庭科を意識したことはなかったし、親から何か言われたこともありませんでした。大学入学後、意識が変わりました。

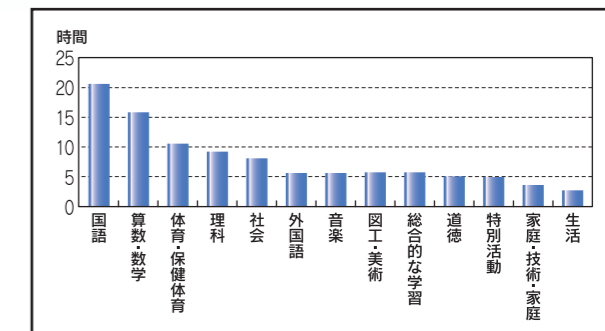
佐賀大学が「家庭科教育学」の教員を募集していたことから、昭和63年に佐賀に来ました。

Q. ご家庭での役割分担はどうなっていますか

A. 家事は、主につれあい料理を、私が洗濯や掃除をしています。子どもが3人いますが、2人目、3人目の子どもができたときは育児休業をとり、全ての家事をしました。子どもたちには、自分のことは自分でできるようになってほしいということを伝えています。できれば同じ価値観の人と結婚してほしいですね。

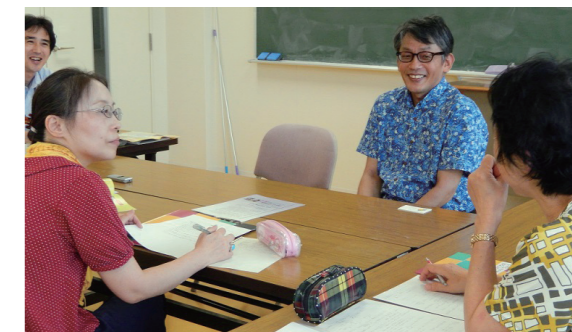
Q. 男性の家庭科教員は増えていますか

A. 私のゼミでは男子学生は2年に1人くらいです。中学・高校の男性家庭科教員も全国で100人程度です。家庭科は幅広い総合的な教科なので、あらゆる能力が必要ですし、家庭科を学ぶことで自分の可能性に気づくことができるのですが、なかなか男性の仕事として増えていかないのが現状です。



小・中学校の合計総授業時間数に占める各教科の時間数 (小学校2011年実施、中学校2012年実施)

高等学校は卒業要件単位74単位以上のうち家庭科は2.7%~5.4%である。(2013年実施)



中西先生の分かりやすいお話はまるで「ミニ講義」。とても面白く、続きを受けたい!と思いました。

インタビューを終えて

私たちを迎えてくださったにこやかな笑顔が、自然体で家政学教育の道に入られたことと繋がりました。今回、家庭科の授業がすごく減っていることを改めて知って愕然とし、生活に根ざした学びの機会がなくなってしまうと感じました。「家庭科の基礎力と応用力が、男女で支え合い、共に生きていく社会のベースになる」ともっと声高に叫びたいと思いました。

(大江登美子、岡本ゆかり、草場栄美)



幼児教育の楽しさ ～子どもたちとともに～

しげや こうじろう
澁谷 康二朗さん

佐賀市立城東保育所 保育士

Q. 保育の仕事に就いてどれくらいになりますか

A. 保育の仕事に就いて5年目になります。城東保育所には今年(平成26年度)から保育士として勤務しています。以前は、佐賀市立本庄幼稚園に4年間、幼稚園教諭として勤務していました。

Q. この職業を選んだきっかけを教えてください

A. 私が中学生のときに弟が保育園に入園し、中学3年生の職場体験で、弟の保育園に行くことになりました。私は昔から小さな子どもが好きだったこともあり、弟の世話をしているうちに保育の仕事に就けたら楽しいだろうなあと思い保育士をめざしました。

Q. 「男性だから困った」ということはありますか

A. 保育所は女性が多い職場ですが、みなさん優しい方ばかりなので、男性だからといって特に困ったことはありません。私の場合、妻も保育士なので、家の中で仕事のことを夫婦で話し合ったりしますが、男性では気づかないような意見を聞くことがあり、大変参考になります。仕事を行う上では、いろいろな人の意見や考えを聞きながら進めていくことが大切ですし、男性の視点、女性の視点、どちらも必要だと思います。そういう意味では、もう少し、男性の保育士がいてもいいのかなと思います。

Q. どんな時に充実感を感じますか

A. 何といっても、園児が大きく成長していく姿が見られるところですね。入所当初の4月は、年少さんは保護

者からなかなか離れられないようですが、1年経つと自信も出てきて大きく成長していきます。年長さんになったら、給食の時間になると机を出したり、食べ終わった後に掃除や後片付けもきちんとできるようになります。そういう姿を見ていると、「みんな成長しているんだな」と実感します。

また、園児と一緒に、野菜に肥料や水をやり、生長を観察しながら育てています。園児とともに自分自身も楽しみながら取り組んでいます。

小さい頃の体験は貴重であり、それを保育士として一緒に体験できるというのはありがたいと思います。

Q. 保育士をめざす方へメッセージをお願いします

A. 保育の仕事は「父性と母性両方が必要」だと思います。男性と女性がそれぞれの特性を発揮して子どもの成長を見守ることができるよう、今後は「男性」保育士がもっともって増えてほしいです。大変やりがいのある仕事ですので、興味がある方はぜひ保育士になってください。一緒に頑張りましょう。



園児が作った作品(おみこし)とパチリ。
子どもたちのことを語っているときの優しい笑顔がとても印象的でした。

インタビューを終えて

初めてお会いして、優しい方だなと思いました。そしてなにより「子どもが好き」な方でした。園児と遊び、ふれあい、成長していく姿を見つめていくことを楽しんでいる、素敵な保育士さんでした。こんな保育士さんに巡り合えて、子どもたちや保護者のみなさんを羨ましく感じました。

(園田恭子、中溝末大、吉田和子)



幸福感が響き合う “絵本の読み聞かせ”の場 に魅了されて

たか き いさお
高木 勲さん

佐賀市立図書館 おはなし広場の会 ボランティア

Q. 活動の内容を教えてください

A. 2年半前から佐賀市立図書館で、毎月第4土曜日の午後3時から子どもを中心に、赤ちゃん、中学生、大人の方、おじいちゃんおばあちゃんを問わず「絵本の読み聞かせ」をしています。

Q. 読み聞かせを始めたきっかけを教えてください

A. もともと機会を作ってしようと思っていたことでした。少し絵本を専門とする仕事をしていたこともあり、ただ、突然大きな病気に見舞われ、声も出せず、焦点もおぼつかず、身体も指先すら動かさなくなり、仕事も続けられなくなったことがあり、その状態から少しずつ回復してきた時、自由に過ごせる時間の中で、社会復帰の良い試みになるなと思って始めたことがきっかけでした。

Q. 活動をするうえで気をつけていることはありますか

A. 自由感です。子どもも大人も、丸ごとその時々の“ありのままの自分”で来て、見て、絵本に入り込んで帰っていけるようなひと時となるよう心を尽くしています。あとは、毎回の選書と練習です。選書では、子どもの想像性といった、内面の世界に働きかける側面もあるので、固定的な性別役割や女の子像や男の子像を植え付ける様な描写がされているものには注意を払いながら、読む絵本を選んでいきます。

Q. 「男性だから困った」ということはありますか

A. それは特にありません。ただ、始めた頃は、聞きに来られた子ども連れの女性の方の中で、「えっ?!」

と私の方を見て驚いたような表情をされたり、聞かれないまま部屋を後にされたり…ということもありました。でも、回数を重ねてからは、そんなことはなくなりました。見慣れていただいたんでしょ。

Q. 読み聞かせをされていてよかったと思うことはありますか

A. 妻が喜んでくれること、今は4ヶ月の娘も喜んでくれること、それから、読み終わって絵本を閉じた後、聞き手(子どもも大人も)との間で、何とも言えない幸福感のようなものが音を奏でて響き合っている、そんな体験を重ねてこられたことです。“絵本の読み聞かせには、聞き手と読み手との間で響き合う、幸福感に満ちたこのような体験がもたらされていたんだ”ということを実感できた喜びです。

Q. 今後の抱負を教えてください

A. 4ヶ月になる娘にずっと読み聞かせしています。そこでいろいろ気づくことがあり、今後は、赤ちゃんとの読み聞かせの機会を設けて、赤ちゃんや1~2歳までのかなり幼い時期の子どもとの絵本の読み聞かせの世界観も広げていきたいと思っています。



子どもたちは夢中で絵本や手遊びを楽しんでいました。

インタビューを終えて

読み聞かせの楽しさやこだわり、今後の夢など、いろいろなお話を聞かせていただくことができました。「おはなし会」では、「へろへろさん」の愛称で活動されているそうです。高木さんの柔らかい口調が人柄を現しているように感じました。絵本の読み聞かせをされる方というのは、今までは女性が多いと思われがちでしたが、今後、男性の方が増えていくきっかけになってほしいと願っています。

(園田恭子、中溝末大、吉田和子)

**男女共同参画推進
協賛事業所
紹介**

市と共に男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所。各事業所の取り組み内容を紹介します。(五十音順)
※協賛事業所は随時募集しています。

味の素株式会社 九州事業所
食品、アミノ酸製造業



当社は、各種アミノ酸や、うま味調味料を生産しているアミノ酸発酵工場です。相互支援しやすい職場風土を作るため、お互いの人生観や価値観を共有する取り組みをはじめました。従業員一人ひとりが「ここで働いてよかった」と思えるような工場をめざしていきたいと思えます。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

KBS文教サービス株式会社
給食業務



当社では、学生食堂・寮食・職員食堂の給食業務を中心に、さまざまな社会のニーズに応えられるようみんなで協力しながら業務に取り組んでいます。業務柄女性が多く働いている職場なので、育児や介護休暇などをしっかり取得できるように、男女問わず従業員一人ひとりがイキイキと働くことができる職場にしようかとがんばっています。

佐賀県農業協同組合
協同組合



農業生産へのかかわりのほか、農業協同組合の農産物加工・直売活動・高齢者福祉活動などにおいて、女性の取り組み、役割が大変重要になってきています。このため、女性の声・意見を農業協同組合の事業及び経営の方針・計画に反映させるために、女性理事の登用や、諸会議への参加を積極的に呼びかけています。

有限会社佐賀スタンプ
印鑑・シャチハタ・印刷製造販売



印鑑(実印・認印)・ゴム印や名刺はがき類を作成。子供の学校行事・病気などの急な用件、家族の介護等でも支障をきたさないよう、早退・有給休暇が取れるようにワーク・ライフ・バランスの意識がしっかりした会社、困ってる人がいたら進んで協力し職場をみんなで支えあいながら一緒に頑張っている社風をめざしています。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

株式会社佐賀リコピーサービス
事務用機器等の小売業



当社は、複合機等の事務所用機器、事務用品及び事務機器の保守管理等を行っています。子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

セブンイレブン佐賀大赤松町店
飲食料点小売業



当店は、コンビニエンスストアで24時間365日の営業形態で商品を販売しています。男女の区別無くレジ接客、商品の陳列・発注等の作業を実施しています。新しい試みとして一人暮らしの方や高齢のご夫婦のもとへ弁当惣菜等の配達サービスも行っています。これからも益々地域密着で喜ばれる店造りを考えています。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

株式会社ダリア佐賀
卸売業



当社は、美容用品、総合卸売商社です。ダリアのビジネスの根底にあるものは「美と健康」を創造する事に携われることへの喜びと感謝の気持ち、そして、それに関わる人々への「より豊かな生活」を追究することにあります。今後は残業を無くし、育児休暇、学校行事参加等、女性が働きやすい職場環境を見直していきたいと思えます。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

松尾建設株式会社
総合建設業



建設業は男性社会のイメージが強いと思いますが、当社は性別に関係なく、意欲や能力のある人材を積極的に活用しています。以前は男性だけだった設計や営業の部門に女性を採用し、多様化する顧客ニーズに対応できる組織づくりを推進しています。今後は、男女を問わず誰もが安心して働ける職場づくりを更に進めていきます。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

みのり歯科診療所
医療業



当院は、全員女性スタッフなので、子供の急な病気や学校行事の際にも安心して休めるよう、また、そのような時には常勤スタッフに負担がかからないように心掛けています。出産後もパートとして戻ってきてくれるスタッフが増え、常勤スタッフの人数が足りないときなどは勤務時間を延長して協力してくれていることに感謝しています。

子育てを支援するために、子どもの学校行事や地域の子育て行事に参加できる環境づくりを推し進めています。有給休暇の取得率の向上、時間単位での取得を認めるなど、できるところから着実に取り組んでいます。

輝く女性応援会議 in 佐賀

開催日 平成26年9月8日(月) 会場 ホテルニューオータニ佐賀 主催 内閣官房、内閣府、佐賀県
「女性の活躍推進」が成長戦略の柱とされるなか、女性が活躍できる社会をめざし「輝く女性応援会議 in 佐賀」が開催されました。

- 【基調講演】**
内閣府男女共同参画局長 武川恵子 氏 「女性が輝く社会をめざして」
・女性の就業率上昇や登用推進に向けた、育児・家事支援の施策や制度整備などの取り組みについて説明
- 【取組発表・意見交換】**
〈コーディネーター〉株式会社佐賀新聞社編集局長 富吉賢太郎 氏
〈コメンテーター〉佐賀県知事 古川康 氏
〈輝く女性〉企業等で働く女性4名
〈各界リーダー〉女性の雇用や子育て支援に取り組む企業関係者4名
・自身の経験や会社での取り組みについて発表



- 発表内容(一部)**
- これまで男性ばかりであった営業や設計部門に女性を登用するようになったことで、女性の視点からも提案等ができるようになり、顧客から評判を得ている。
(松尾建設株式会社 坂本裕三 氏)
 - 生活スタイルに合わせた勤務時間の調整や、子どもの体調不良や学校行事等にも柔軟に対応できる「働きやすい環境づくり」に注力した結果、従業員が自発的に業務で高い成果を出すための取り組みをする職場になった。
(レバレッジズ株式会社 山本征史 氏)
- ※松尾建設株式会社様とレバレッジズ株式会社様は、佐賀市の男女共同参画推進協賛事業所としてご協力いただいております。

女性人材リスト登録者向け研修会

女性人材リスト登録者のためのスキルアップ講座 ～「あなたブランド」を確立しよう～

開催日：平成26年1月26日(日)

会 場：ほほえみ館

講 師：福成有美さん(株式会社アテンド 代表取締役社長)

女性人材リスト登録者のさらなるスキルアップのための講座を開催しました。登録者同士の交流を図り、自身が活かすことのできる専門分野(スキル・経験)を表現するための「自分ブランド」づくりについて学んでいただきました。誰のために何ができるか、誰を幸せにするか、どうなりたいか、そのために何をするか等、参加者間で共に考え共有する時間となりました。



参加者の声

・分かり易く、テンポよく、いかにプレゼンできるか。何が苦手なのかが見え、課題が来ました。

・自己紹介の時に、自分を理解してもらうためには…、相手に与える印象を良くするためには…など、本当に学ばせていただいた気がします。また、続きの講座を待っています。

女性人材リスト登録者を募集しています!!!

～男女共同参画社会の実現のために、 あなたの経験や知識、能力を活かしませんか?～

「女性人材リスト」は、さまざまな分野において専門的な知識や技術を有する女性を登録したものであり、講座の講師や各種委員会の委員等を選定する際に活用しています。ぜひ「女性人材リスト」にご登録いただき、男女共同参画社会の実現にご協力ください。

- 対象者** 男女共同参画、保健・医療、社会福祉、金融・経済、まちづくり、エネルギー・環境、防災、情報・通信、国際交流、教育などの専門的知識や技能をお持ちの人
- 応募方法** 「女性人材リスト登録票」に必要事項を記入の上、本庁男女共同参画課にお持ちください。「女性人材リスト登録票」は、本庁男女共同参画課、各支所総務課に備え付けているほか、佐賀市ホームページからもダウンロードできます。
- その他**
 - ・登録情報は、目的以外では一切使用しません。
 - ・登録された方が必ず講師や委員として選定されるものではありません。
 - ・女性人材リストを利用される方も随時募集しています。
- 問い合わせ先** 佐賀市企画調整部 男女共同参画課



編集後記

今回のインタビューをさせていただいた方々が、仕事や活動を始められた当時は、男性がとても少なかったと思いますが、それぞれが自分のやりたい事に熱意をもって挑戦されており、イキイキと輝いて見えました。

男性も女性も性別にとらわれず、「自分は何をしたいのか」「自分の能力を活かせるものは何なのか」を考えることが大切ではないでしょうか。

編集委員 大江登美子・岡本ゆかり・草場 栄美
園田 恭子・中溝 未大・吉田 和子

※編集委員は、市民の方にご協力いただいております。

「ぱすぽーと」に関する
ご意見・ご感想をお寄せください

発行

佐賀市企画調整部 男女共同参画課
〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
【TEL】0952-40-7014
【FAX】0952-29-2095
【URL】http://www.city.saga.lg.jp/
【E-mail】danjokyodo@city.saga.lg.jp